

<今日の説教のポイント マタイによる福音書2章1～12節>
ルカ福音書の聖誕記事と比べると、大事なことが見えて来る！

①最初に気づいたのは異邦人。ルカ福音書では羊飼いです。共通点は？

マタイ福音書の聖誕物語の最大の特徴は、イエス様の誕生に最初に気づいた人々が「東の方から来た占星術の学者たち」(1)だったということです。つまり、ユダヤ人ではなく異邦人だったのです。神様がこのようなことを起こされたのでしょうか？ それとも、神の民より先に異邦人が神のなさることに気づくことがあり得るということでしょうか？ ルカ福音書の聖誕物語では、神様が羊飼いに告げられたわけですから、こちらは明らかに神様がそうなさったと言えます。しかしマタイでは「(占星術の)学者たち」とあるように、これは当時の賢者を意味しているので、肝心の神の民ユダヤ人が気づく前に、それ以外の民の人が自分たちの知識を駆使して神様の救いの業に気づくことができたことを意味しているでしょう。このようなことは確かに起こり得ます(例：奥野昌綱)。結局は、ルカとマタイのどちらからも、私たちの予想を超えた、神様のなさることの広さ・長さ・高さ・深さを覚えさせられます(エフェソ3:18-19では、キリストの愛の～)。感謝！

②どうも抜けたところある学者たち。大丈夫？

この箇所を読むと、どうも、やって来た学者たちが抜けているような気がしてなりません。ヘロデ王の所にわざわざやって来て、「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」(2)と聞くのでしょうか？ さらに、ヘロデ王の策略に全く気づいていないようです。夢で神様のお告げを聞いていなかったら、ヘロデ王の元に報告に帰って殺されていたかもしれません。しかし、この抜けた所のある彼らを神様は守って下さったのです。神様はなぜ助けて下さったのでしょうか？

③ 抜けていてもいい、神様を信じ敬う思いが強ければ！

異邦人の彼らが当時最高の贈物を携えて来、それを捧げて「ひれ伏して幼子を拝み」、信仰を告白したのです！ 私たちのやることは少々抜けていてもいいのです。神様を心から敬い畏れて歩むなら、人間の知恵より賢い神様が私たちを見守り、導いて下さるのです。「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです」(Iコリント1:25)